

景徳鎮 千年展

One Thousand Years
of Jingdezhen

皇帝の器から毛沢東の食器まで

平成19(2007)年

7月31日(火)

9月17日(月)

【開館時間】 午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

【休館日】 8月6日(月)・13日(月)・20日(月)・
27日(月)・9月3日(月)・10日(月)

【入館料】 一般 300円 (240円)
小中学生 100円 (80円)

※ ()内は団体10名以上、60歳以上の方および
障害者の方は無料。毎週土曜日は小中学生無料。

【講演会】 8月25日(土) 午後2時～

「景徳鎮磁器の展開」

講師 長谷部 楽爾 氏 /東京国立博物館名誉館員

●主催：渋谷区立松濤美術館、朝日新聞社

●特別協力：MEKホールディングス ●協力：全日本空輸

●企画協力：東京国立博物館 ●コーディネート：S2



青花魚跳龍門図盤 清 康熙窯 鴻禧美術館

渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14 TEL 03-3465-9421

<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>

〈交通案内〉 JRほか渋谷駅下車 徒歩15分、京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分



袖下芙蓉文碗 〈部分〉
1975年 個人



景德鎮千年展



One Thousand Years of Jingdezhen

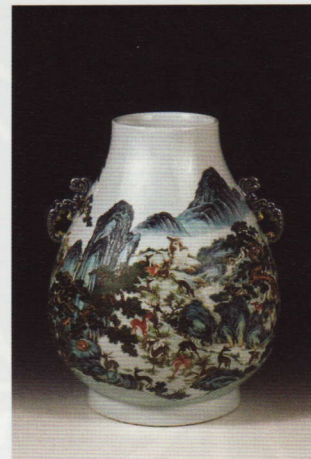
皇帝の器から毛沢東の食器まで



釉下紅梅文房具各種 1975年 個人



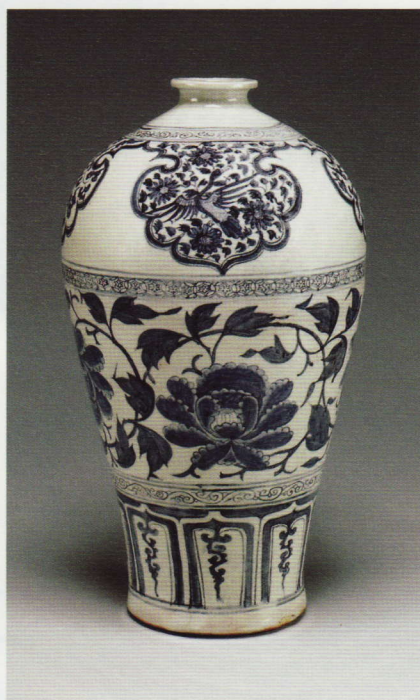
黄地粉彩瓢蟲文瓢形瓶 清 乾隆窯 南京博物院



粉彩百鹿文双耳大壺 清 乾隆窯 南京博物院



五彩五魚文大盤 清 康熙窯 鴻禧美術館



青花牡丹唐草文梅瓶 元 鴻禧美術館



藍地黄彩雲龍文盤 清 乾隆窯 鴻禧美術館



素三彩花蝶文碗 清 康熙窯 鴻禧美術館



青白磁刻花蓮池文鉢 北宋 鴻禧美術館



中国江西省にある景德鎮は、世界的な磁器の生産地として知られています。唐宋五代（10世紀）から青白磁の生産が始まり、北宋時代の景德元年（1004年）、その元号を冠して「景德鎮」の名前が誕生しました。このころから白磁、青白磁の生産が本格化し、13世紀末以降、元・明・清王朝の宮廷御用器となってさらに発展し、白磁、染付（青花）、色絵磁器は世界的名声を博しました。

文化大革命末期の1975年、当時の最高指導者、毛沢東のために日常使いの器を製造するよう秘密裏に中央政府から指示を受けた景德鎮は、第一級の職人たちによって、最高の原材料と革新的な技術を駆使して、これまで実現したことなかった1400度の高温焼成による美しい磁器を完成させました。この生産計画は、その年の第一級の任務という意味をこめて「7501工程」と呼ばれました。完成品のうち約1000点が北京に送られましたが、残りはすべて廃棄するよう指示があったのですが、破損して再注文が来ても二度と同じ水準のものは作れないと考えた製造関係者によって、密かに保管されました。毛沢東の没後、保管されていた製品は当時の関係者に配られ、民間へと伝わりました。近年「最後の官窯」とも評され、中国国内でも注目されてきております。

本展は、宋時代の青白磁や元の染付、明・清の歴代の官窯製品、そして日本初公開となる「7501工程」の食器や文房具など約130点により、歴代の皇帝や最高指導者、そして現在も人々を魅了しつづける景德鎮磁器の千年にわたる変遷を紹介いたします。

講演会

8月25日(土) 午後2時～「景德鎮磁器の展開」
講師 長谷部 楽爾 氏 / 東京国立博物館名誉館員

美術相談

8月19日(日) 午後2時～4時 講師 北尾 和子 (水彩画)
9月2日(日) 午後2時～4時 講師 佐久間公憲 (油彩画)

美術映画会

8月4日(土) 午後2時～「漢詩紀行 11 三国志の歴史を行く」
9月9日(日) 午後2時～「漢詩紀行 12 三国志の歴史を行く」

ギャラリートーク

8月18日(土)、9月8日(土) 各日午後2時～ 担当学芸員

次回展予告

Great Ukiyoe Masters / 春信、歌麿、北斎、広重
— ミネアポリス美術館秘蔵コレクションより —
10月2日(火)～11月25日(日)



渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14
TEL 03-3465-9421
<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>
渋谷駅下車 徒歩15分、京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分